

伸びる神立の子



H23年11月28日
神立小学校
子育て便り4

学力診断テスト「やる気」はどこから？

冬休みが終わって、始業式翌日の1月11日（水）に県下一斉の学力診断テストが下のよう
な内容で行われます。

- | | |
|--------|---|
| 1 対象学年 | 3, 4, 5, 6年生 |
| 2 教科 | 国語, 社会, 算数, 理科
(各教科45分, 国語は聞き取りテストがあり55分) |
| 3 出題範囲 | 前年度の1月から本年度の12月までに学習した範囲
(3年生の社会と理科については, 今年度初めて学習している
ので4月からの範囲となります。) |

学校としても、このテストで子どもたちが力を発揮できるように、対策問題を作成したり、月曜
の6時間目に「学びの時間」を設けたり、冬休みの課題を工夫したりするなど、対応しているこ
ろです。

「テストがあるから勉強する。」というのも大切なことですが、テ
ストをひとつの区切りとして、これまでの学習全般のおさらいをし
て、学習内容を定着させるということも大切な視点です。もちろん
学力診断テストでは学習の定着度を測ることができるので、学習を
しっかりものにしていく人は結果的に良い点数がとれることになり
ますが…。

さて、小学生の場合「**テストの答え方**」が身につけていないこと
があります。たとえば、「ア～オの中から記号で答えなさい。」とい
う問題に対して記号ではなく「大陸だな」のように言葉で答えてし
まったり、「文中から書き抜きなさい。」という問題に対して、自分
の考えを書いてしまったりするようなことです。また、書き終わった後で「**見直し**」をしないた
めに間違いをそのままにして点数を落とすこともあります。(保護者の方もこんな経験はあるかと
思いますが、これらは「慣れ」や「訓練」によってだんだんと直っていくものです。)

ですが、神立小の子どもたちの様子を見ていて最も気になるのは、ことばで書いて答える問題(い
わゆる記述式問題)に対して、はじめから何も書かずに、あきらめてしまっている子がいるとい
うことです。

人間にとって「**がんばる力**」は大切なものです。でも、この力は学校だけではなかなか育てるこ
とができません。家の人の「**はげまし**」や「**見守り**」が、子どもたちの「**やる気**」や「**勇気**」に
つながっていきます。学ぶことの目的や人生の目的は、学校生活やスポーツ体験も含め、子どもは
自分を取り巻く環境から身につけていくものですが、最も大きく影響を与えるのは、やはり親の姿
や親子の関わりの方です。



真剣に向かう朝の学習

子どもを伸ばす小さなアイデア その4

4 子どもの学習環境に気配りを

「子どもが勉強するのに勉強部屋は必要ですか？」これは、よくある質問ですが、答え
は「特に必要ありません。」です。ふだん食事をするテーブルで十分です。いいえ、むしろ
小学生の場合(特に低学年の場合)その方がいいのです。親のそばで勉強できることは子
どもの安心感につながります。たいがいの親は付きっきりで子どもの勉強をみてあげるな
んでできないことです。だから、お母さんの手のあいたときや食事のしたくの間に見て
あげたり、子どもが困ったときにちょっと教えてあげたりできるような場所で勉強したほ
うがいいのです。

さて、別の場面を考えてみましょう。家族でテレビを見ているときに、子どもに「勉強
しなさい」と言っても子どももなかなかその気になりません。テレビの誘惑は案外大きな
障害となっています。もちろんテレビを見ながらの学習では効果も上がりません。子ども
が勉強するときには、親もテレビを見るのをちょっとだけがまんすることが必要かもしれ
ません。子どもが集中して学習に取り組めるように気を配りたいものです。